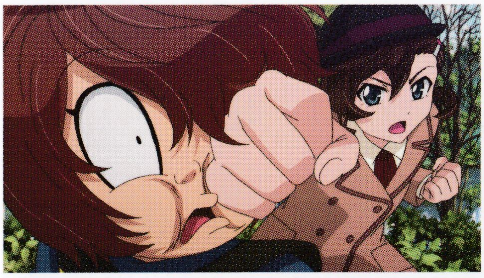

ゲゲゲの鬼太郎
4

DISC





第38話
新春食人奇譚 火車

まなは死体を引きずり運んでいる火車の姿を目撃してしまう。火車は死体を好んで食らう妖怪で、昔は、火葬場に現われては人間の死体を盗み暴れまわっていたというが、まなが目の当たりにした妖怪は弱々しい姿をしていた。

演出：竹下健一　脚本：横谷昌宏　作画監督：清山 滋崇　美術：今野慎一

第39話
雪女純白恋愛白書





とあるカフェで、ねこ娘とまなは雪女のゆきと話をしていた。ゆきによると、俊という人間の男と交際することになったのだという。しかし、人間と妖怪の生活習慣の違いからゆきと俊は喧嘩をしてしまい……。

演出：古賀 豪　脚本：井上亜樹子　作画監督：大西陽一　美術：加藤 恵





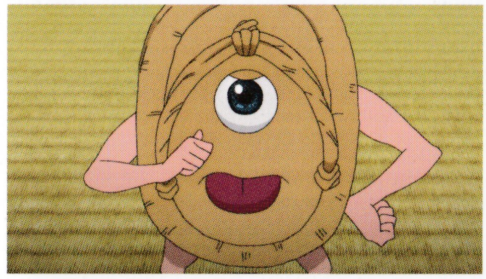
第40話
終極の譚歌 さら小僧

全く売れないピン芸人のビンボーイサム。ある日の帰り道、妖怪・さら小僧が「ぺったらぺたらこ」と唄を歌いながら皿を洗っていた。彼は、その様子を盗み見てネタにすることを思いつくが、自分の唄が盗まれたと知ったさら小僧は激怒して……!?

演出：牧野次郎　脚本：伊達さん　作画監督：八島善孝　美術：加藤 恵

第 41 話

怪事！化け草履の乱

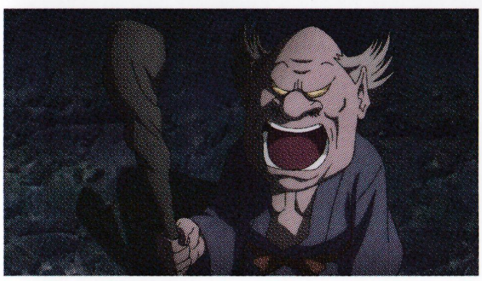




主に捨てられたとショックを受ける化け草履達。そこへねずみ男が通りかかった。何やら金儲けをひらめいたねずみ男は、物を大事にしない人間達に一泡吹かせてやると、化け草履たちをそそのかすが……。

演出：中村明博　脚本：伊達さん　作画監督：藤原未来夫　美術：加藤 恵





第 42 話

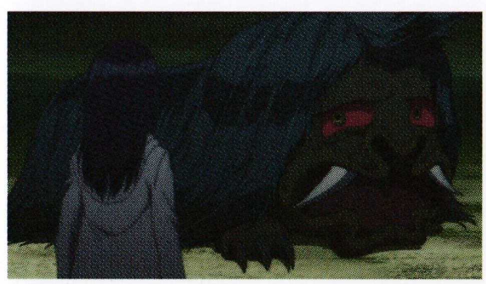
百々爺の姦計 妖怪大裁判

カラス天狗の一団が鬼太郎の前に現われ、抹殺罪で逮捕すると告げて鬼太郎を連行してしまう。報せを聞いた鬼太郎ファミリーは不当な逮捕に驚くが、法廷で白黒つけようと裁判に臨む決意を固める。かくして、妖怪大裁判が開廷された。

演出：地岡公俊　脚本：大野木 寛　作画監督：市川吉幸　美術：加藤 恵

第 43 話

永遠の命 おどろおどろ

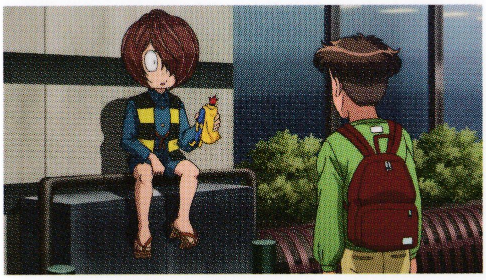


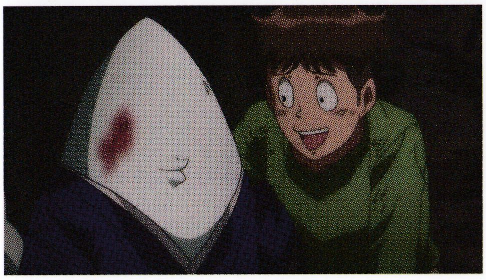


最近、街では奇妙な吸血事件が多発していた。そして鬼太郎に届いた一通の手紙、それは自分を殺して欲しいという依頼だった……。送り主のもとへ向かう鬼太郎。そこには、不死の細胞を開発し自分の体で実験した結果、妖怪に変異するようになってしまったという男がいた……。

演出：角銅博之　脚本：野村祐一、大野木 寛
作画監督：太田晃博　美術：加藤 恵

DISC





第 44 話

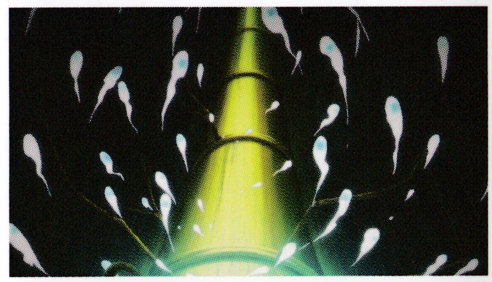
なりすまし のっぺらぼう

アイドルユニットの一員である北島敦は、チャラ男キャラを演じ続けていた。偽りの自分を演じる事に疲れ果てていた敦は、SNSで知り合ったゴーゴー万次郎という、顔も分からない友人に支えられていた。ある日、ゴーゴー万次郎に「会いたい」というメッセージを送るのだが……。

演出：内山まな　絵コンテ：なかの★陽　脚本：井上亜樹子
作画監督：真波三郎　美術：加藤 恵

第 45 話

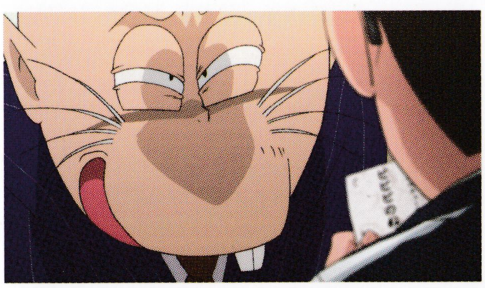
真相は 万年竹の藪の中

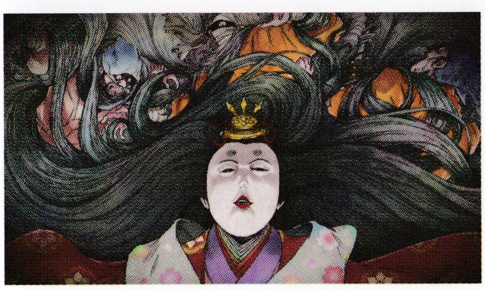




「妖怪・万年竹に襲われる」という手紙を受け取った鬼太郎は、山深くの竹薮までやってきた。そこでは、竹薮の持ち主である夫妻達とねずみ男が待ち構えていた。竹薮を観光地にしようと考えたが、元主をはじめ次々と行方不明者が出ているのだという。

演出：前島健一　脚本：伊達さん　作画監督：鈴木伸一　美術：加藤 恵





第 46 話

呪いのひな祭 麻桶毛

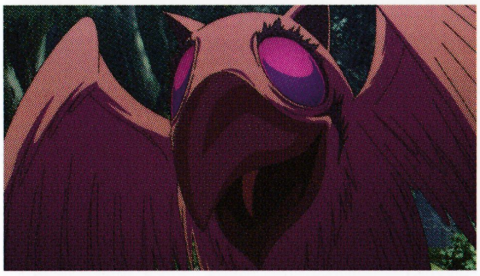
まなは友人達と学校にある雛人形を眺めていた。置かれているのはお内裏様とお雛様のみだが、残りの人形は後日届くという。忘れ物をしたまなだけが一旦教室へ戻るが、その間に友人達が消えてしまう。訝しむまなだったが、雛壇にある人形の数が増えていて……。

演出：門 由利子　脚本：井上亜樹子　作画監督：小泉 昇　美術：加藤 恵

第 47 話

赤子さらいの姑獲鳥(うぶめ)





赤ん坊誘拐事件が多発。鬼太郎は妖怪が絡んでいると睨み子泣きじじいをおとりにする作戦を敢行する。待ち構えていると、妖怪・姑獲鳥が現れて赤ん坊に扮した子泣きじじいをさらっていく。追跡を開始する鬼太郎の姿を妖怪チャンネルのドローンカメラが追跡していて……!?

演出：岩井隆央　絵コンテ：越智一裕　脚本：吉野弘幸
作画監督：大西陽一、清山 滋崇　美術：加藤 恵





第 48 話

絶望と漆黒の虚無(きょむ)

まなはねこ娘を自らの力で魂ごと消滅させてしまう。その映像は拡散され、妖怪と人間の対立は激化する。両者が、お互いを滅ぼそうとする中、まなと鬼太郎も互いに怒りをぶつけてしまう。妖怪と人間の狭間に立つ二人は果たして……！

演出：やしろ 駿　脚本：大野木 寛　作画監督：袴田裕二　美術：加藤 恵

第 49 話

名無しと真名(まな)





まなを器にした名無しは、想像しえないような強大な力を手に入れた。その圧倒的な力は、人間も妖怪も等しく虚無に引きずり込んでいく。なすすべもなく立ち尽くす鬼太郎のもとに、ねずみ男が現れた。彼はその拳を振り上げ、鬼太郎を殴り飛ばす!!

演出：飛田 剛　絵コンテ：小川孝治　脚本：大野木 寛
作画監督：藤原未来夫　美術：加藤 恵

ゲゲゲのお喋り 4



子泣きじじい・ぬりかべ役
島田敏

×



砂かけばばあ役
田中真弓

ゲゲゲのお喋り第4回目は、子泣きじじいとぬりかべの2役を演じる島田敏さんと、砂かけばばあ役の田中真弓さんに登場していただきます。『ゲゲゲの鬼太郎』の脇を固めるお2人の心境から、アットホームな現場で飛び交うやりとりまで。息の合った会話を交えて語っていただきました。

40年来の先輩後輩！

――お2人が初めて知り合われたのはいつごろでしょうか？

島田敏(以下、島)：40数年前なので、相当長い付き合いですね。

田中真弓(以下、田)：以前「テアトル・エコー」という劇団に所属していて、島田さんは私の先輩だったんです。"島田先輩"を見て色々なことを勉強させていただきました。

島：そんなことを言いながら、劇団時代の発声訓練で「し・ま・だ・の・ば・か」って言っていたんですよ(笑)。とんでもない後輩でしょ？

田：他の先輩方が言い始めたんですよ！　それに



合わせていたら、島田さんが本気で怒っちゃって(笑)。

――島田さんの、どういった部分を「勉強」されたのでしょうか？

田：昔のアニメは絵が全くない状態でアフレコをすることもあったのですが、そんな中で島田さんが演じた「崖から転がり落ちる」というシーンがすごかったんですよ。「頭をぶつけた！」とか「大きな岩に当たった！」という様子が、島田さんの声だけで見えてくるんです。それを延々とやっている様子は衝撃でしたね。

島：声を当てるとき、「だいたいこんな感じかな？」というだけでは成立しないと思っていまして。「これはこうなんだ！」と自分で納得してやらないと、作品がぼやけてしまうんですよ。

田：やれという指示のない部分も、全部塗りつぶすタイプですよね。そうした部分を勉強させてもらっているのですが。

島：私達の仕事は役に命を吹き込むことですから、きちんと理解して演じたいなという思いはありますね。新人のころ、暴風雨の中で「お母さーん！」と叫ぶシーンに全力で叫んだら、「もっと抑えろよ！　隣のマイクが拾うじゃないか！」って怒られたこともありましたね。「命を吹き込むのにどうやって抑えればいいんですか！」って返してしまいました(笑)。昔は怒られてばかりいましたよ。

田：まあ、「そこまでやらなくても」って思うこともありますけど(笑)。それでも、出ないものを出せと言うのは大変ですから。演出家の方も間引く

ほうが楽なんじゃないですかね。……あ！『鬼太郎』の話をしなきゃ（笑）！

発声練習の様子が怖い!?

——本作でキャストに決まったときのお話をお聞かせください。

田：これ以上、少年役は受けられないと思っていたので、良い役が来たなと思いました。この先のことも考えると、歳相応の役をやりたいなと思ってるんです。でも、おばあさんとかお母さんのオーディションになかなか受からないんですよ！

島：僕は、子泣きじじいのオーディションを受けたんです。「赤ちゃんの泣き声をやってください」と言われたので、「オギャア、オギャア」と泣いて採用していただきました。

田：泣き声のバリエーションがすごいですよね！第47話「赤子さらいの姑獲鳥（うぶめ）」の子泣きじじいは泣いてるのか、酔って吐いてるのかわからない感じがおもしろい（笑）。

島：人を「騙す」ために泣いているので、興味を持ってもらえるように、遠くに離れているときは逆に小さい声で泣いてみたり、いきなり泣いてみたり、罠に落ちてもらうようにやっていたほうが面白いのかなと思いまして。

——そうした役作りのために気をつけていることはありますか？

田：最初のアフレコの際、声のキーに関して「ばばあは低く、じじいは高く」という演出を受けたんです。ですから、私はいつも「うぅぅー」と低い声を出す練習をして、その近くで島田さんが……。

島：僕は「ウェッ！ ウェッ！」と、高い声を出す練習をしています（笑）。スタジオに向かう道すがらでも、体を温めていますね。以前、地下鉄を降りて、周りに人がいない時を見計らって「オギャア、オギャア」と言いながら歩いていたら……後ろから来た人に「何だこいつ!?」というような顔をされてしまいました（笑）。

田：すれ違った人が子泣きじじいの声を出していたらね、怖いから（笑）！

島：見られた僕のほうもビックリしましたよ（笑）。高いトーンの声は、収録の直前まで発声をしていないと出せないんです。

——ご自身と演じられている役に関して、共通する部分はありますか？



島：僕は、お酒かな（笑）。

田：日本酒大好きですものね。

島：いや、役作りのためにですよ（笑）！

砂かけばばあにも若いころがあった!?

——第6期の『鬼太郎』の印象をお聞かせください。

島：今現在の社会情勢を取り入れていて面白いですね。僕は怖い話が苦手なのですが、それでも怖いもの見たさで観たくなってしまいます。

田：今までの『鬼太郎』とは全くテイストが違うなと感じました。初めてねこ娘を観た時には「うぉっ!? 斬新！」と、びっくりしましたよ。他のメンバーも斬新な変わり方をしているのかと期待してしまいましたが、砂かけばばあと子泣きじじいはあまり変わっていませんでしたね！

島：（笑）。

——第6期の『鬼太郎』の中で、印象的だったお話はありますか？

田：第9話「河童の働き方改革」は笑いました！あの話は面白かった。

島：世相を反映した作品ですから、大人も観ていて面白いでしょうね。そうした点でも、第6期の『鬼太郎』はファミリーで楽しめる作品じゃないかなと思います。

田：2年目では元号が変わるというお話を入れていましたし、時代に合った話を作るスピード感がすごい。

島：あと、第42話「百々爺の姦計 妖怪大裁判」は、世界観が良かったですね。裁判になって、鬼太郎本人の弁明はなく、周りが動いて。作り方が上手いなぁと思いました。

田：そうだ！ 目玉おやじの若いころの姿が出てきたじゃないですか（第14話「まくら返しと幻の夢」）、あの話を観たとき、砂かけばばあの過去も描いてほしいと期待してしまったんです。砂かけばばあとはいえ、最初からばばあだったわけではなくて、若いころがあったと思うんですよ。ですから私は、砂かけばばあにも“良い時”があったんじゃないのかなと勝手に想像しています。脇役をクローズアップしてくれる話があると良いんですけど、残念ながらなかなかないんですよね。そうした役の背景や背負っているものがない分、アドリブで遊びやすいのは楽しいですけど（笑）。

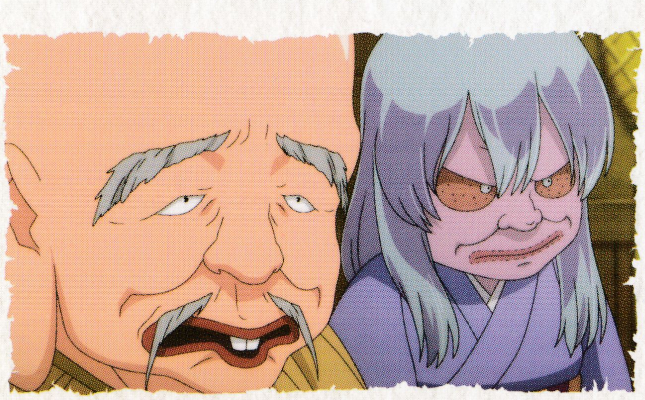
――ご自身の演じられている役以外で、やりたい役はありますか？

田：過去がきちんと描かれるキャラクターをやりたいなということで、1回出てくるゲスト妖怪みたいなほうがやりたいですね。ないものねだりです（笑）。

島：僕もやりたいですね、ゲストで登場して、主役で楽しめる役。百々爺役の斎藤志郎さんは、さも「鬼太郎が悪い」というように仕立て上げる悪いやつを演じていて、楽しそうでしたよ。

田：そうだよね、悪役って楽しいよね。私がやらせていただいているのは、ずっと「正義」なんですよ。だから、ちょっと悪い役をいただけると嬉しかったりします。ちょっと二枚目の悪役というのもやってみたいですが、そうした役はやはり男性が演じることが多いんですよね。ですからやっぱり……今の「良いばばあ」が良いのかも。

――島田さんは悪役もやられていらっしゃいますよね？



島：そうですね、色々やらせていただいています。でも、好みで言えばアホな役が好きですね。

田：頭が悪い役をやらせたらピカイチですよ（笑）。

島：今回もそうかもしれませんね。よく呑んで、酔ってますし。

アットホームな現場でアドリブも飛び交う！

――アフレコの現場はどのような雰囲気でしょうか？

島：非常にアットホームなチームで本当に楽しいですよね。野沢（雅子）さんも色々なお話をしてくださいますし。

田：マコさん（野沢雅子さんの愛称）とは、御祓いの時、雪の中の布多天神社で、木に登って写真を撮ったりしました。ばばあと、もっとばばあがやってるわけですから、周りに心配されてしまいましたね（笑）。でも、マコさんはお元気で、声を枯らしたこともないし、どこかが痛いとか言わないんですよ。

島：聞いたことがないですね。

田：ないんですよ、本当に立派な方です。逆にこちらの体調を心配してくださったりして、恥ずかしくなりますね。私はもう、目が悪くて……アフレコで映像を観てから台本の文字に焦点を合わせるのに結構時間がかかるんですよ。「ぼわーん」ってなって、焦点が合うまでに時間がかかる。

島：でも『ゲゲゲの鬼太郎』は台本の字が大きいから。

田：そうそうそう。年寄りに優しい。

島：あれに慣れてしまうと他の仕事で「えぇっ！」ってなりますね（笑）。

――他の方の様子はいかがですか？

田：古川登志夫さんは、楽しそうにやっているよね。時々歌を歌ってね（笑）。

島：鼻をほじくってね。

田：屁ぇこいてね。良い役ですよ。あとは、勝平（山口勝平さんの愛称）が隙あらばアドリブを入れてきますね、隙間産業ですよ。勝平のアドリブは割とちゃんと採用されている気がしますね。

――「チューするぞ」というセリフは田中さんのアドリブから生まれたそうですね。

田：このセリフは、砂かけばばあの武器のつもり

だったんです。「しびれ砂じゃ！」と言うよりも、「チューするぞ！」と言ったほうが、相手がビビるでしょ(笑)？

島：「チューするぞ」は、今では台本に書いてあるよね。

田：ね(笑)。

――他には、どんなアドリブをされていますか？

田：オンエアでは使われていないですけど、「もうチューしてやらんぞ」って一反もめんに言ったら、勝平が「さみしかばい」って答えてくれました(笑)。

島：僕は、子泣きじじいが泣くシーンで、普通に泣くだけではつまらないので、酔っ払いっぽく、「うっぷ」って言いながら泣いたりしましたね。

妖怪ポストに切実なお願い！

――もし妖怪ポストがあったらどんなことをお願いしたいですかね。

田：悩んじゃうなぁ。

島：２つあります。１つは応援の手紙です。人間界と妖怪のつながりを頑張ってほしいと伝えたいですね。もう１つは、砂かけばばあの「チューするぞ」から逃れる方法を聞いてみたい(笑)。

田：そう来ましたか(笑)。じゃあ、鬼太郎へのお願いを通して……第６期の『鬼太郎』を作っている人達にお願いしちゃおっかな！ 鬼太郎を囲む砂かけばばあ達の過去に何があったのか、なにゆえこのチームで戦っているのか、どんな繋がりがあって一緒に居るのか教えてほしい！ きっと、長い付き合いじゃないですか、深い関係性があると思います。そうした意味では、鬼太郎ファミリーは砂かけばばあからの……「チューから逃れる方法はないんじゃ！」。

島：(笑)。

BOX4を購入してくれたみなさんに！

――最後にBlu-ray、DVDをご購入いただいた方へメッセージをお願いします。

田：お楽しみいただきまして本当にありがとうございます。2年目でも、様々な楽しみがあるかと思います。もしかしたら、今回お話したことも実現するかもしれないですし。今後も、是非とも応援してください。

島：今回の第６期は、今までにないストーリー展開が魅力だと思います。これからも『ゲゲゲの鬼太郎』で、真剣に酔っ払いながら、真面目にふざけながら、一生懸命楽しい作品づくりに励もうと思います。どうぞよろしくお願いします。





島田敏

新潟県出身。青二プロダクション所属。
代表作はアニメ『ちびまる子ちゃん』友蔵おじいちゃん役、『ONE PIECE』ワポル役、『機動戦士Ζガンダム～星を継ぐ者～恋人たち～星の鼓動は愛～』パプテマス・シロッコ役、『北斗の拳』ユダ役、『忍たま乱太郎』ヘムヘム役など。映画『スター・ウォーズ』シリーズ ルーク・スカイウォーカー役など。



田中真弓

東京都出身。青二プロダクション所属。
代表作はアニメ『ONE PIECE』モンキー・D・ルフィ役、『ドラゴンボール』クリリン役、『天空の城ラピュタ』パズー役、『とっても！ラッキーマン』ラッキーマン役、『魔神英雄伝ワタル』戦部ワタル役、『カッパの三平』三平役など。映画『ベイブ』ベイブ役など。

永富×小川の

ゲゲゲの部屋



プロデューサーの永富とシリーズディレクターの小川がスタッフを招いて『ゲゲゲの鬼太郎』第6期を語り合う連載コーナー第4弾！今回のゲストは水木プロダクションの原口尚子さんと原口智裕さんにご登場いただき、第6期の『鬼太郎』が始まるまでの経緯や、水木しげる先生の遺した意思などを語っていただきました。


プロデューサー
永富大地
×

シリーズディレクター
小川孝治
×


水木プロダクション
原口尚子/原口智裕

水木先生の意思は「自由にやって良い」。

——アニメ『ゲゲゲの鬼太郎』第6期について、東映アニメーションと水木プロダクションの間で最初にどのようなお話をされたのでしょうか？

永富大地(以下永)：1番最初にお伺いしたのは、2016年12月です。企画書も無く、ご挨拶という段階でした。その後、フジテレビプロデューサーの狩野雄太さんと第6期の鬼太郎はどうあるべきかという話を詰めて……。その内容を水木プロさんにお持ちしたのが、2017年の春先ですかね。

原口尚子(以下尚)：水木は「漫画は自分のオリジナルだけど、映像作品については自分の手を離れるものだから、余程のことが無い限りは自由にやって良いです」という考えを持っていました。ですから、こちらからの要望はあまりしていません。

原口智裕(以下智)：原作をそのまま同じ形でリメイクしても新しいものにはなりませんからね。しいて言えば、低年齢向けに絞らず、大人も楽しめるような作品にしていただきたいというお願いをしました。

永：本当に、お二人のご理解に感謝です。まだ形の無い“第6期の鬼太郎”を、言葉と情熱と、ちょっとした1枚の絵で説明するしかない段階で、「東映アニメーションさんのことを信じます」と言っていただけたことが印象に残っています。東映動画時代から水木プロさんとの関係があって、先輩方のいままでの働きのおかげでOKをいただいているというのが……ありがたく、嬉しかったですね。

オンエア前にイベントたくさん！

——では、放送が始まってからは……

永：放送が始まる前の段階で、水木プロさんに感謝していることがあるのでお話させてください。僕が水木プロさんに「境港に行きたい」というお話をしたら、「行きましょう」とセッティングしてくださったんです。



尚：水木しげる記念館館長の庄司さんに、境港の美味しいお店を紹介していただいて……。

永：食べ物以外にもありましたよ(笑)！ 水木しげる先生ゆかりの地を案内していただいて、先生のルーツに触れさせていただきまし



た。先生の生家から、境水道とその向こう側にある島根半島の景色を見ていると……何かが居そうな気がする、不思議な感覚になるんです。

尚：海と山が同時に見えるんですよ。

永：これから『鬼太郎』を描いていく小川監督やシリーズ構成の大野木寛さん達と、そうした景色を一緒に見られたのは、良い経験になりました。

尚：境港の後は、調布にも足を運んでいただきましたね。水木の命日に催された「ゲゲゲ忌」というイベントの際、調布市役所の方に調布をご案内いただきました。鬼太郎の家は、布多天神社の裏にあるという設定なんですよね。

小川孝治（以下小）：アニメでは実際の布多天神社の位置と少し違いますけど、なるべく調布の風景を入れようとはしています。第44話「なりすましのっぺらぼう」では、調布の天神通りが登場しますね。本当なら鬼太郎のオブジェが置いてある場所に、本物の鬼太郎が座っているカットがあります（笑）。

永：そうしたやりとりを経て、オンエアを迎えて……。

尚：キックオフパーティーもありましたね。

永：そうでした！ スタッフや声優の方も集まって、布多天神社で御祓いをしたんです。

尚：その後、駅前のホテルでご飯を食べてみんなで盛り上がるという会をやりました。

永：3月は水木先生の生誕祭もありましたよね？

尚：まだあります。調布市での先行試写会もあって……。

永：そうしたことを経て、やっとオンエアです（笑）。

——放映前に、そうしたイベントが多いのはめずらしいのではないでしょうか？

永：なかなかないと思いますね。「キックオフパーティー」という言葉自体、使うのが初めてでしたから（笑）。でも、そうやって水木プロさんと交流させていただいた経験が、第6期の『鬼太郎』に色濃く反映されています。今の『鬼太郎』に必要なものでした。

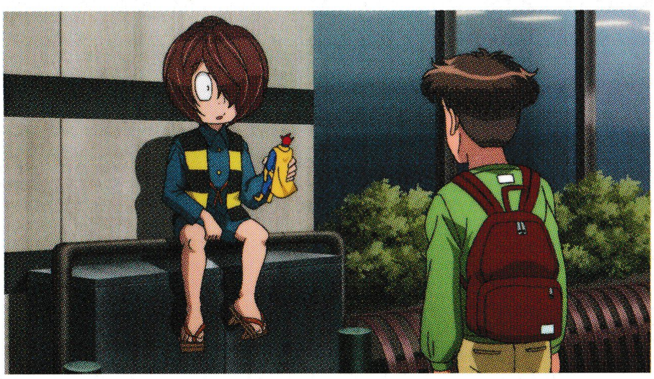
尚：私達は、アニメの内容に対して口を出していませんが、「こういうものがありますよ、こういう景色がありますよ」と、『鬼太郎』や水木を取り巻く色んなものをご紹介させていただきました。そうした部分を、バックグラウンドにしてもらえたら嬉しいなというスタンスです。

第6期が一番!?

——オンエアが始まってから、第6期の『鬼太郎』を観た感想はいかがでしたか？

智：まず、第1話のインパクトが良かったですよね。人間の闇を描く第6シリーズの特徴が良く出ていました。それと、第7話の「幽霊電車」。過去のシリーズの『鬼太郎』で必ず取り上げる話なので期待していたのですが、第6シリーズならではの良い形ができていて良かったです。

永：「幽霊電車」や「牛鬼」のように、どのシリーズでも取り上げられる作品は多いですが、僕らは、「どの話も第6期が1番面白くしたいね」と言いな



がらやっています(笑)！「第3期と同じだよね」とか、「第4期の方が面白かった」とか言われると悔しいですからね(笑)。でも、先輩方も同じように思いながら制作していたと思うんです。自分達が作るものが一番面白いと。

小：基本的に後出しじゃんけんですから、負けられないですよね。でも、後出しでもこれは手を付けたくないなというのはあります。

永：過去の作品が面白すぎて？

小：そう。天邪鬼(あまのじゃく)(第4期の第26話「復活！妖怪天邪鬼」)と、おばけナイター（第4期劇場版）は、特に手を付けたくないです(笑)。

永：それを、プロデューサーの力でいつかなんとかやってもらわないといけないという(笑)。

――周囲の方からの反応はいかがでしょうか？

智：いままでの水木ファンの方にも受け入れられているようです。

尚：こちらに寄せられる評判も、良い内容ばかりです。いただいたクレームは、「すねこすりがかわいそう」というメールくらい(笑)。第6話「厄運のすねこすり」は、何回見ても泣いちゃいますね。

永：あの後、すねこすりはゲゲゲの森の前を横切っていますから。





尚：そうですよね！　きちんと、「よかったー！」という反応をいただきました。

智：映ったのは一瞬でしたが、視聴者のみなさん、見落としてないんですよね。

――第1話から登場した名無しについてはどう感じられたでしょうか？

智：いち視聴者的な立場で観ていますから、まなちゃんにどんどん文字が刻まれていく様子に「どうなっていくんだろうな」と思っていましたよ。

尚：ただ、名無しが読んでいる詩が、何を言っているのか分からなくて……。

智：キャストの皆さんが「大野木さんのポエム」と言っていましたね。

永：大野木さんご自身が書いてるポエムです(笑)。あれは、念仏のように聞こえるようにしているんです。念仏って、何を言っているのか分からない分、雰囲気を感じますよね。

尚：でも、大野木さんが一生懸命考えたポエムなら、ちゃんと知りたいですよね。

永・小：(笑)

永：じゃあ、ブックレットに載せてもらいましょうか！

親子で楽しめる『鬼太郎』。

――第6期の『鬼太郎』は子供達にも人気があるようですね。

永：『鬼太郎』のイベントで、小さな女の子がねこ娘や鬼太郎のコスプレをしていたのはびっくりしましたね。年齢も男女も問わず鬼太郎が好きなんだなと感じて、嬉しかったです。シナリオを難しめに作っているのに子供が観てくれているのは、『鬼太郎』というコンテンツ自体の力が強いと思っています。水木しげる先生が生み出したゲゲゲの

鬼太郎という世界、鬼太郎達のキャラクターそのものに、根源的に子供達の魂をつかんで離さない部分があるんですよ。そうじゃないと、第6期の『鬼太郎』に、こんなに子どものファンがついていないだろうなと考えています。我々は、水木しげる先生の手のひらの上で遊ばせていただいているんですよ。

智：水木のマンガやエッセイを読んで勉強されて、水木の描いてきた本質的な部分をきちんと理解していただいていますよね。ですから、それが伝わるような作品になっているんだろうなと思います。

――イベントでは親子で楽しんでいる様子も見受けられますね。

智：上映会の様子を見ていると、お父さんお母さんが自分の観ていたシリーズの鬼太郎の話をお子さんにするのが面白いですね。"繋がっている"と感じます。

永：「これが自分の代の鬼太郎だよ」「これがわたしの代の鬼太郎」という話は、鬼太郎にしかできないことですよね。長く続いている作品はありますが、ずっと同じように続いているか、タイトルが同じで内容がガラッと変わるというものが多いので、鬼太郎のような変わり方はなかなか無いと思いますよ。視聴者のみなさん、それぞれ自分の代の鬼太郎があるというのは、面白いです。

――最後に、BOX4を購入したみなさんにメッセージをお願いします！

智：今期の鬼太郎は1回観ただけでは分からない内容もあると思いますので、このBOX4で繰り返し観て楽しんでほしいです。

尚：通してみると、緩急がすごく、振れ幅もありますしね。この先の2年目も、尖ったお話もあれば、ほっこりするお話もある、様々な展開をしてくれるでしょうから、楽しみにしていてください。……私も、みなさんと同じように楽しみにしているんですよ。

永：BOX4は1年間紡いできた起承転結の物語の「結」で、まなと名無しの物語が終わります。2年目に関して言うと、もう一度"起承転結"をやります。2年目の第1話から観ていただいても大丈夫なような作りになりますので、ぜひ、2年目もお楽しみください。

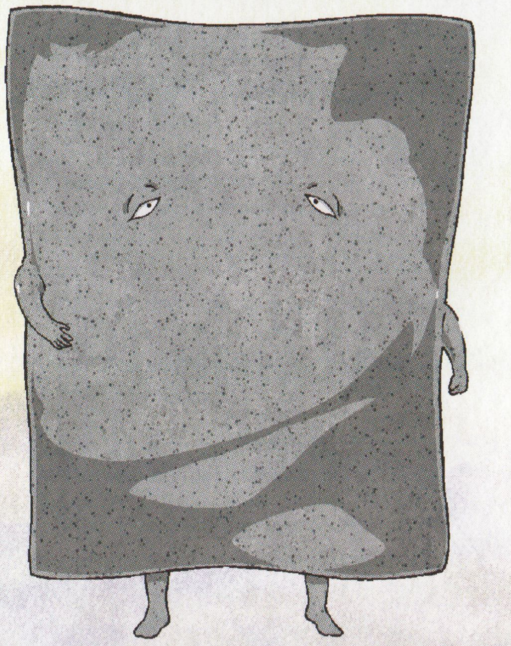
小：実は僕、水木先生の「幸福の7か条」に影響を受けていまして。今回の鬼太郎は、それをベースとしている部分が多いんです。2年目も、妖怪の恐怖と人の生きざまを通して"本当の幸せは何か"ということを追い続け、それが視聴者の方の幸せに繋がると良いなと思っています。

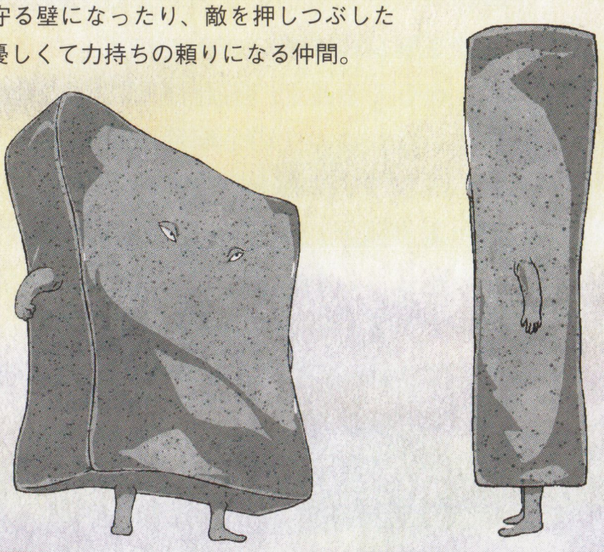


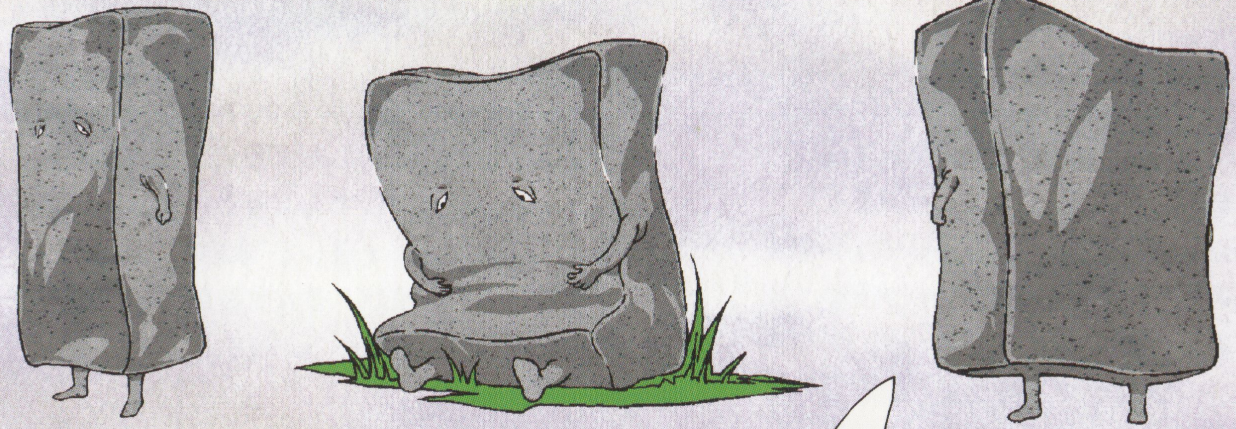
キャラクター紹介

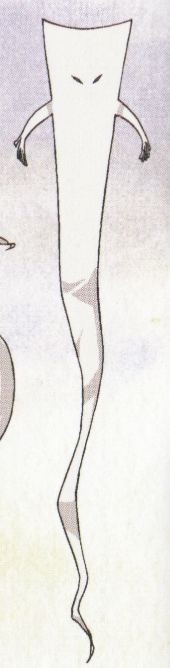
ぬりかべ

巨大な壁の妖怪。口数は少ないが、身体を張って鬼太郎達を守る壁になったり、敵を押しつぶしたりと、気は優しくて力持ちの頼りになる仲間。









一反（いったん）もめん

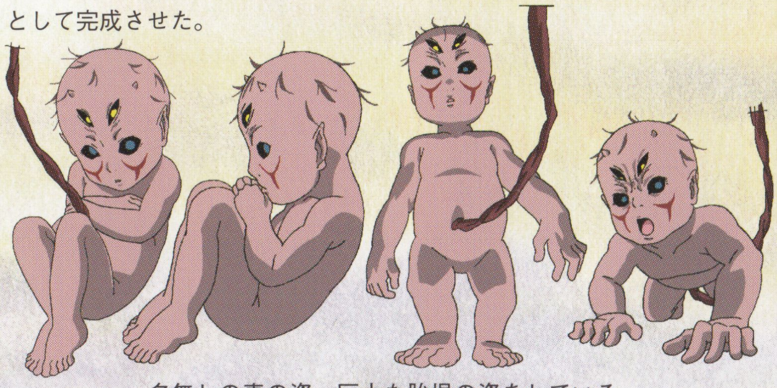
白い反物の妖怪。細長い体でひらひらと空を舞い、鬼太郎を乗せて空を飛ぶこともある。女の子が大好きな九州の妖怪で、女の子を見るとすぐに口説きに行ってしまう。





名無し / 名無し虚無

その正体は、人間と妖怪の間に生まれるはずだった存在。しかし、生まれ落ちる前に両親が殺されたため、名付けられることも、愛されることもなく、ただ他者を憎んで生きてきた。母親の血縁者にあたる一族を監視しており、まなと鬼太郎が出会ったことで彼女に目を付ける。そして、自分の内側に溜め込んだ世界中の憎しみを注ぎ込み、器として完成させた。



名無しの真の姿。巨大な胎児の姿をしている。



#38 火車（かしゃ）

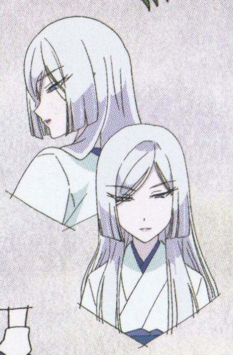
餅と人間の死体を好んで食べる妖怪。かつては葬式場に現われては死体を奪い取って逃げる身軽さを持っていたが、年老いてからは体が思うように動かず、餅ばかり食べて暮らす境遇を嘆いていた。自分と相手の魂を入れ替えることによって、相手の体を奪う能力も持っている。





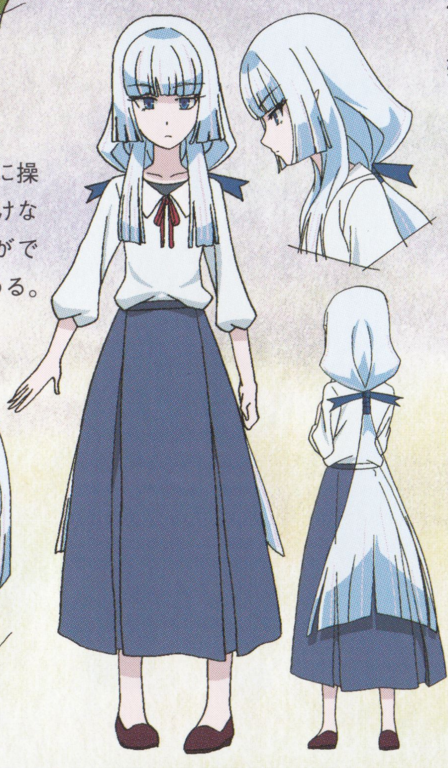
#39 ゆきの母

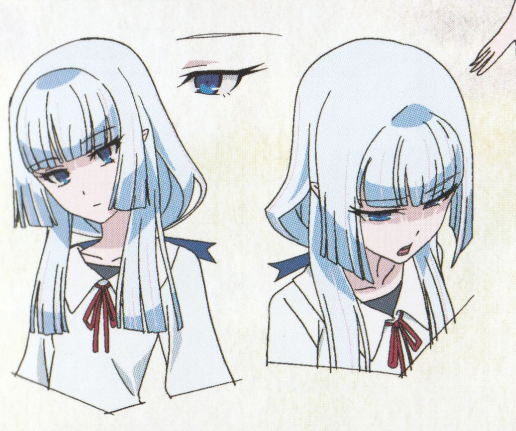
娘のゆきが人間と交際することに厳しく反対する。

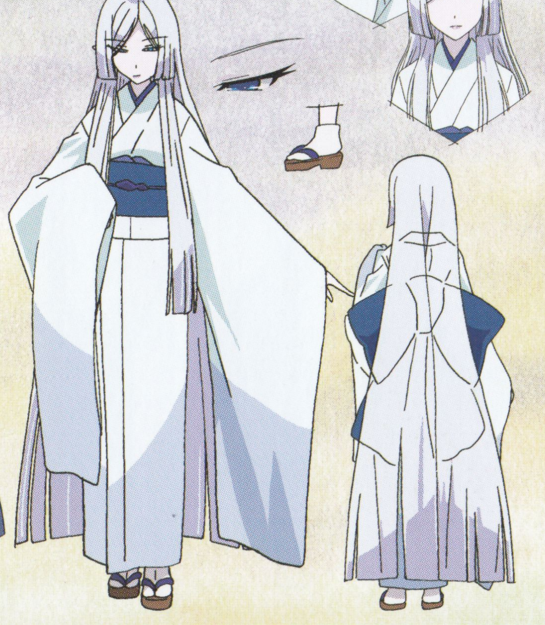


#39 雪女・ゆき

美しい女性の姿をしている妖怪。雪を自在に操る能力を持つ。寒いところでしか生きていけないため、人間界には冬の間しかいることができない。 人間の俊に押されて付き合い始める。ねこ娘とは恋愛相談をする仲。



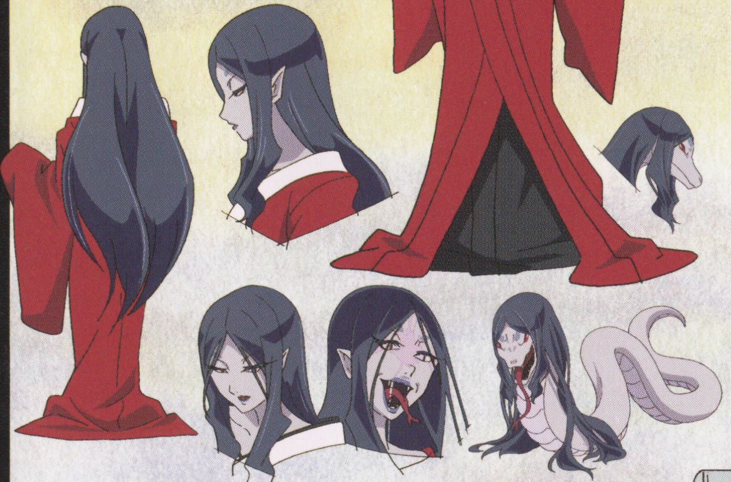




#39 沼御前（ぬまごぜん）

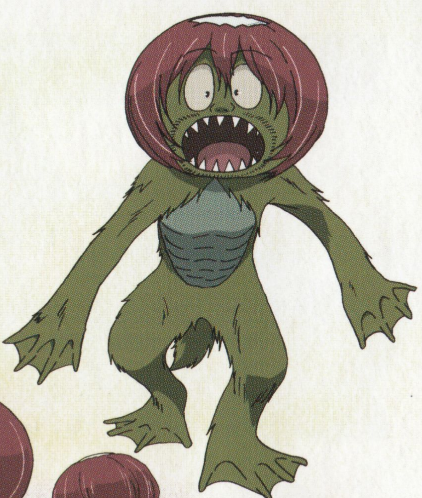
美女に化けることのできる大蛇の妖怪。ねずみ男から紹介を受けて人間の男を惑わし、食べようと企んでいたが、かけつけた鬼太郎にハートを射抜かれ惚れてしまった。

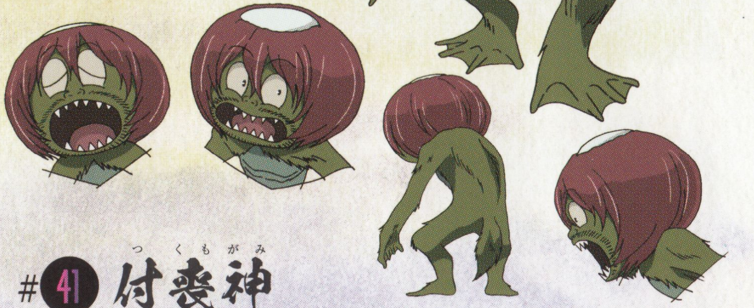




#40 さら小僧

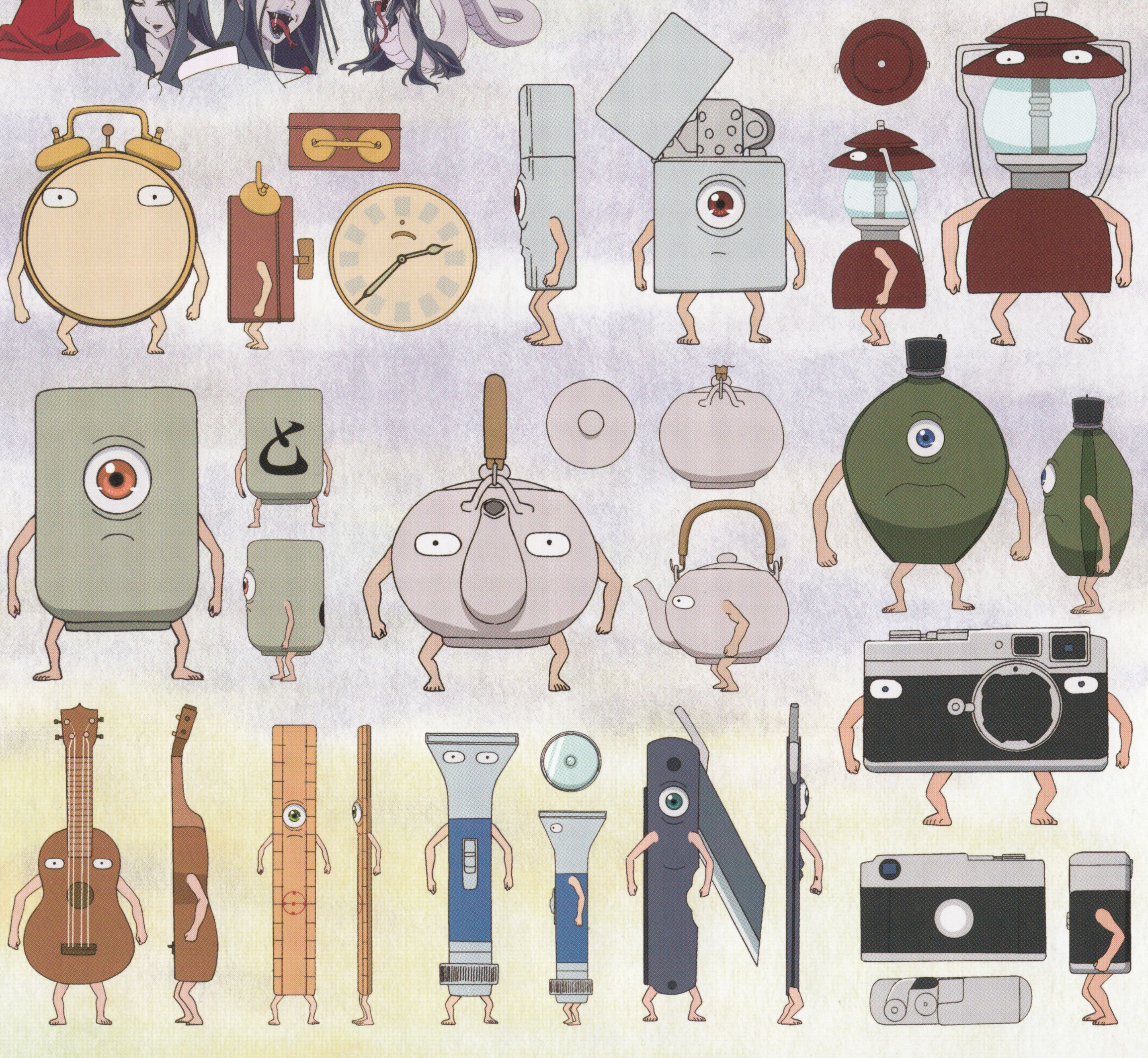
普段は陽気に歌ったり、皿を洗ってすごしている。しかし、実は凶暴な性格の持ち主で、一度暴れだすと手がつけられなくなるという。「ぺったらこ」の唄をこよなく愛しているが、自分以外の者がこの唄を歌うことは許せない。





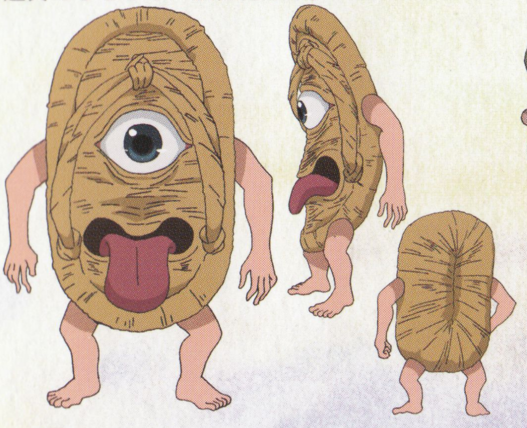
#41 付喪神（つくもがみ）

長い年月を経た道具に魂が宿った存在。



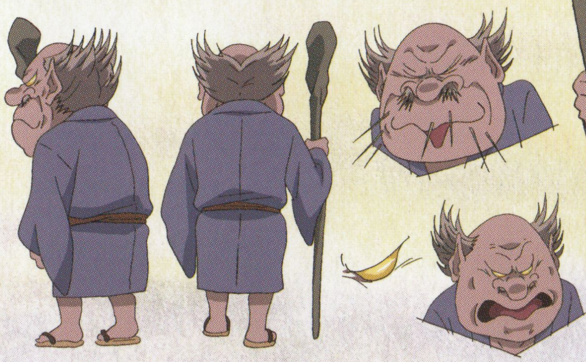
#41 化け草履

古い草履に魂が宿った付喪神。靴屋の店主・勇夫に大切にされてきたが、引越しの際に間違いでゴミとして捨てられてしまい、他の古道具たちとともに妖怪化した。



#42 百々爺

杖をもった小柄な老人の姿をした妖怪。抹殺罪に問われている鬼太郎の妖怪大裁判で検察として参加してきた。様々な証拠や証人を提示し、鬼太郎を有罪に追い込もうとする。

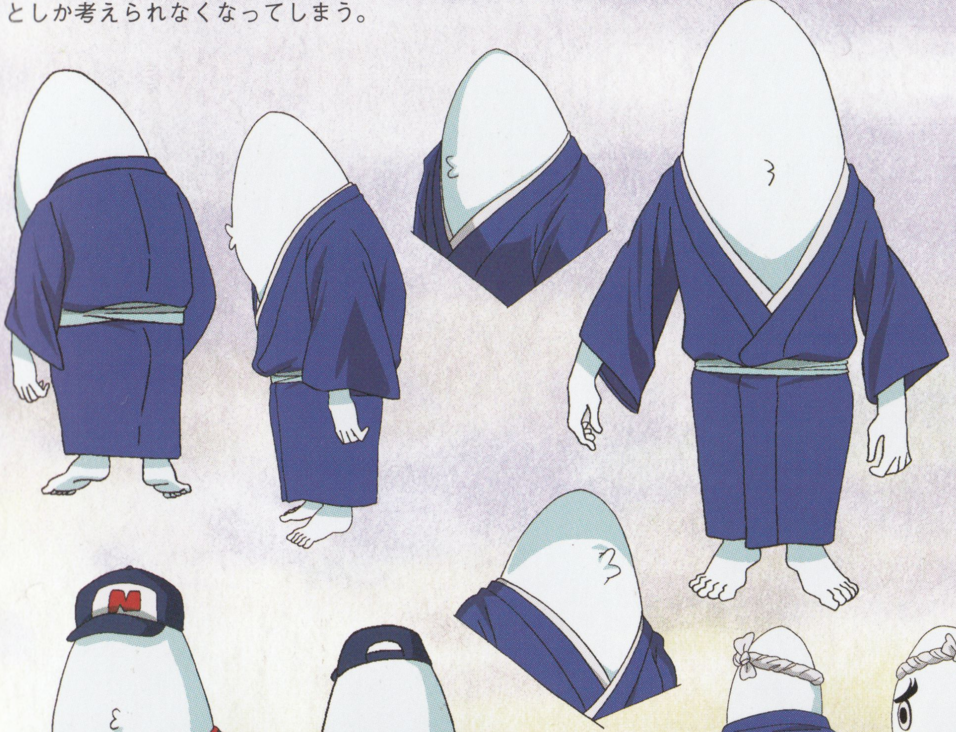




#43 おどろおどろ

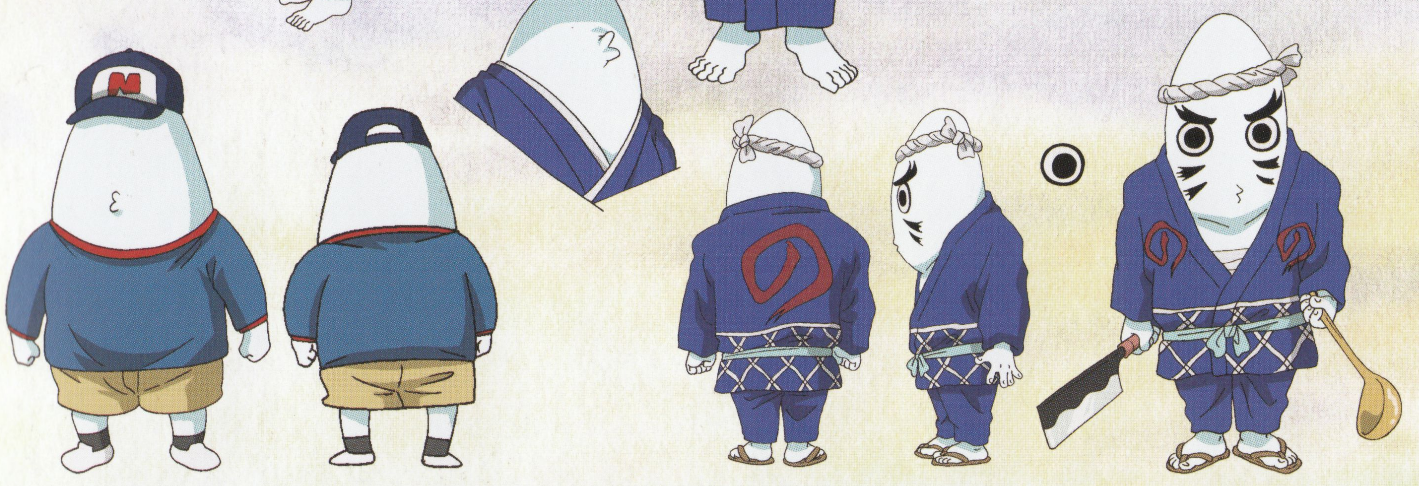
人間の生き血を求めて人を襲う巨大な頭部のみの妖怪。髪の毛を伸ばして人を捕らえ、その髪の先から血を吸い取る。元は人間で、正体は遺伝子操作の研究をしていた小野崎博士。不死細胞を証明するため自分の体で実験をした結果、おどろおどろに変異してしまう。一度おどろおどろに変異してしまうと、自我を失い、ひたすら新鮮な血のことしか考えられなくなってしまう。





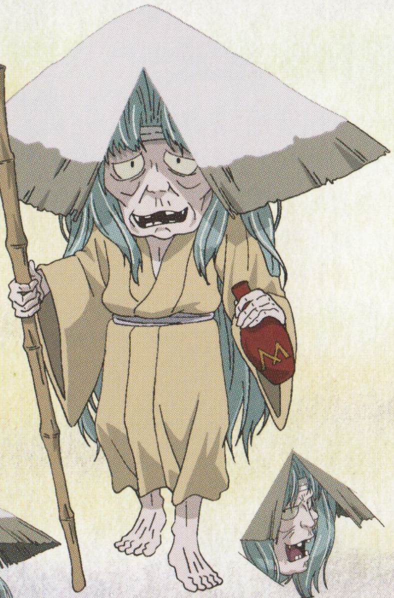
#44 のっぺらぼう

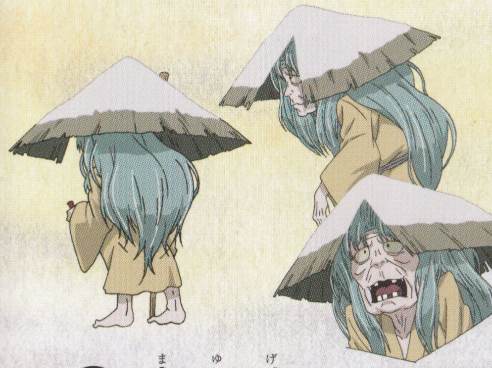
顔に目や鼻が無い妖怪。人魂の天ぷらが好物。人気アイドルユニットの一員・北島敦とSNSで知り合い、友人として会話を楽しんでいた。敦に、直接会ってみたいと言われてしまい、自分の代わりに鬼太郎を敦の所へ向かわせるが替え玉だということがばれ、姿を見られてしまう。敦はのっぺらぼうをお化けと恐れ逃げ出すが、敦が白粉婆に襲われた際に、捨て身で白粉婆に立ち向かい敦を守ろうとした。



#44 白粉婆

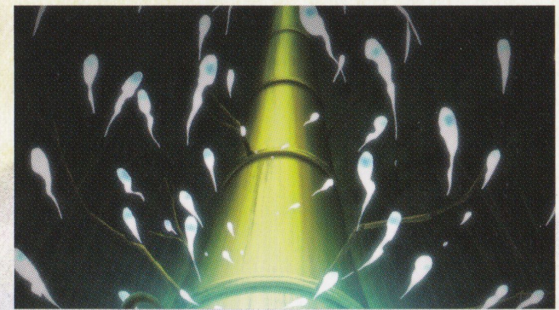
老婆の姿をした妖怪。人間を食べるために、アイドルユニット・パラダイスの王子様キャラである悠に化けて、寄ってくるファンを誘い出しては食料にしていた。





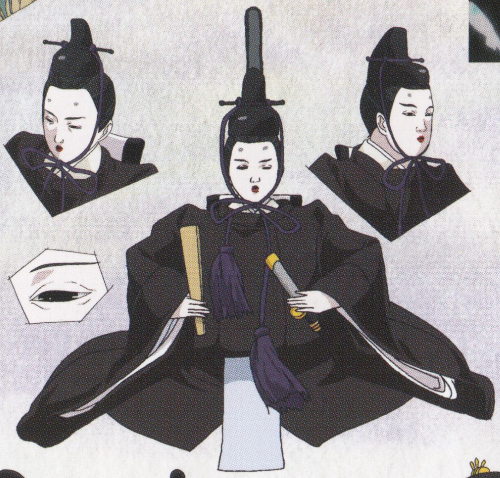
#45 万年竹

樹齢1万年を越えた巨大な竹の妖怪。藪に迷い込んだ人間の生気を吸い取ると言われている。人間を竹人間へと変異させて自分の意のままに動く僕にすることができる。竹藪の主であった心優しい人間・大吉と心を交わし仲良く暮らしていたが、大吉が何者かによって殺害されてから、人間を恨むようになり、藪に入ってきた者を竹人間に変えてしまっていた。

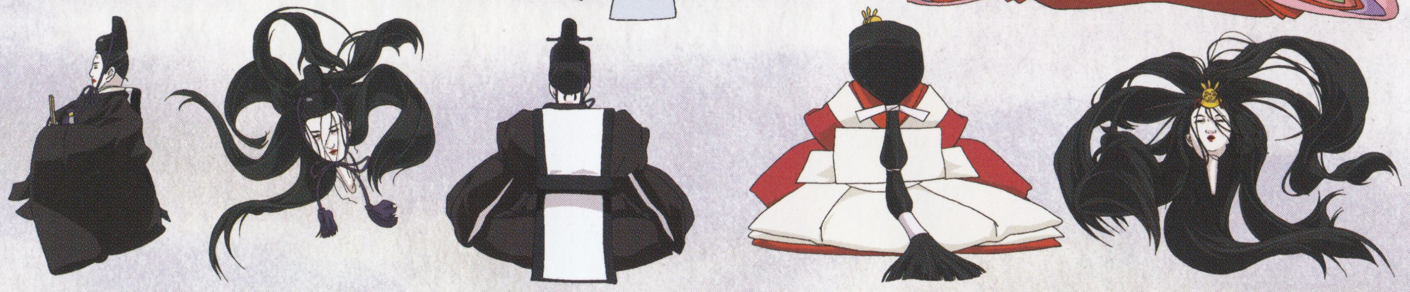


#46 麻桶毛

もとはある神社の御神体で一筋の毛だったが、祀られなくなってしまった麻桶毛は人形の髪の毛に隠れて生き続けてきたという。鋼よりも硬い髪を伸ばして生きる者を襲い、その養分を吸い取る。吸い取られた者は人形に姿を変えられてしまう。鬼太郎も不意をつかれ一度は人形に姿を変えられてしまった。







#47 姑獲鳥

泣いている赤ん坊を見ると、攫って世話をする妖怪。巨大な鳥の姿をしている。人間に放置されていると勘違いした赤ん坊を次々と攫っていたが、依頼を受けた鬼太郎に敗北し、二度と赤ん坊を攫わないことを約束し、その後はゲゲゲの森で穏やかに暮らしていた。しかし、赤ん坊に重傷を負わせた罪をなすりつけられ、大勢の人間に襲われる。まなに庇われるも、人間を憎みながら飛び去っていった。





#48 畑怨霊

巨大な頭だけの妖怪。人間による妖怪狩りが激化する中、人間と戦うべきと意見する。



名無しの呪詛

第11話「日本征服！八百八狸軍団」
したしたした、
闇のしたたる、
血のしたたる、
うごめくモノは何者ぞ

第12話「首都壊滅！恐怖の妖怪獣」
虚ろなうつわ、
虚ろなうつわ、
骨を盛ろうか、
血で満たそうか、
いっそ腐った肉を盛ろ

第36話「日本全妖怪化計画」
とうとうなったブリガドーン。
みなみな、狂え。狂うてしまえ。
くるくる、くるくる、くるくる
狂う。狂えば王道。狂えば楽土。
等しく狂気の闇へと落ちる

第42話「百々爺の姦計　妖怪大裁判」
名無し　なしなし　仲間なし
あやかしものでもなし　人でなし
命あるものでもなし　死者でなし
うつろう器を満たすのみ

第25話「くびれ鬼の呪詛」
人を呪わば穴ふたつ。みつよついつつ、
むつななつ。ななつ涙に泣き濡れて、
呪う心はいつ尽きる。人の世果つる末までも、
呪う心は尽きるまじ。暗い思いは尽きるまじ

第25話
これで二つ目。うつろな器に目がふたつ。
いつつそろうはいつの日か

第27話「襲来！バックベアード軍団」
戦さ、民草、根無し草、愚かに戦う枯れ草の、
燃え広がりて、焼け野原。その憎しみこそが、
こよなき甘露

第37話「決戦!!バックベアード」
あとふたつ。ふたつふたふた、ふつのたま。
満つる器はうれしやな。うつろな器が満つる
とき、この世に地獄の口開く

第47話「赤子さらいの姑獲鳥」
いよよ　いよいよ　世の果ての　果てのハテルマオメガメガ
ひとひとひとつ　あとひとつ　ひとつで満つる器なら
満たしてみしょうこの手にて　果たしてみしょう　この世をば

第48話「絶望と漆黒の虚無」
からからからの　空器　うつつ　うつうつ
現身の　憎悪に憎悪をこきまぜて　満てよ、器。
いまこそ！



第48話
そろうたり、五行！生まれたり、五芒星！
成せよ、逆五芒！これぞ反克、反生の時！

※シナリオより抜粋しているため、放送と異なる箇所がございます。



BIXA-9014／BIBA-9024

デザイン：バナナグローブスタジオ